

体育科部会

研究主題 一人一人が運動の楽しさを知り、意欲をもって取り組む体育学習

1 主題について

従来の主題を引き継いでいる。部活動などで運動に取り組む子どもと、全く取り組まない子どもとの二極化が進む現状の中、運動の楽しさを知ることが、従来にも増して重要になってきている。この「楽しさを知ること」を「仲間の交流」「技能」「運動に関する思考」など多面的にとらえて研究実践を進めてきた。

2 今年度の取組

月 日	実 践 内 容	月 日	実 践 内 容
4月13日	第1回総合研究会 研究主題確認・年間計画作成	10月25日	第2回総合研究会 授業研究会（桂城小学校）
7月 1日	実技研修会（桂城小学校）		個人実践紹介

3 研究内容

(1) 実技研修

- ・期 日 平成23年 7月1日（金） ・会 場 桂城小学校
- ・内 容 体づくり運動の指導の工夫（西部地区学校体育実技指導者中央講習会より）
- ・指導者 秋田県教育庁保健体育課 指導主事 齋藤 元 先生

(2) 授業研究

- ・期 日 平成23年10月25日（火）
- ・会 場 桂城小学校
- ・単元名 5年体づくり運動（体ほぐし、体力を高める運動）
「体力アップでウキウキ、モリモリ」
- ・授業者 成田 朗子



【研究授業の様子】

① 授業者から

- ・体づくり運動は分からないことが多かった。
- ・学習発表会で5年生恒例の組体操をやったところ、体が小さいことや力強さ、持続力という点で苦労したので、体力を高める運動を主体に単元を考えた。
- ・4時間扱いの1時間目は、オリエンテーションとしていろいろな体ほぐしや体力を高める運動を体験させたり、補助の仕方を教えたりした。2時間目は、Gボールや縄跳び、ぞうきんリレーなどの運動を正しく行うことをねらいにして活動した。その際、競争を取り入れたことで、グループ内で言葉が厳しくなり、その反省を受けて本時はアドバイスや協力を強調した。

② 協 議

- ・体ほぐしの運動では、「島から島へ」の1つだと飽きてくる。前時や本時のように声を掛けて協力することのよさを確認したり、島の位置をずらして負荷をかけたりするなどの変化を付けたところがよかった。
- ・本時のめあてにあった「アドバイス」については、どんなアドバイスをしたらよいか提示

するとさらによかった。各コーナーに掲示していた運動のポイントを確認したり、学習カードにある子どもの声を活用したりするとよい。また、アドバイスする時間の確保やアドバイスを自分の言葉で表現することが課題になってくる。

- ・BGMをうまく活用し、指示の回数を減らしたことで、運動量の確保ができていた。また、準備や片付けなどを自発的に行う子どもが多く、学習のしつけがよくできていた。

(3) 各校の実践紹介・テーマ研究

- ・実技研修会を受けて、各校で「体づくり運動」を実践し、情報交換を行った。



【Gボールを使った運動】

(4) 指導助言（高橋 敏治 指導主事）

① 授業について

- ・子どもがきびきび動いていた。準備や片付け、あいさつなどのしつけができていた。また、一生懸命に汗をかいて運動し、運動の本質に触れていた。
- ・声の掛け合い、作戦を立てる場面などでアドバイスができていた。学級で日々指導され、よりよい人間関係ができているからこそのことと思う。

② 体づくり運動の単元の組み方や評価

- ・低学年からきちんと取り組み、帯単元でなく数時間で計画して実践してほしい。いろいろな資料（文科省：まるわかりハンドブックなど）を参考にしてほしい。
- ・体づくり運動のねらいや行い方を知り、ポイントをしっかりと教えたい。これというポイントを1つか2つに絞って活動させ評価する。そうすることで学習カードの振り返りから見取することもできる。運動の具体的なポイントをカードに書き込ませるとよい。
- ・「体力を高める運動」には「技能」の評価がある。「体ほぐしの運動」はそのねらいから運動の技能の観点から削除されている。

③ 競争性について

- ・指導者のねらいによって、体ほぐし運動にも巧みな動きの運動にもなる。
- ・競争場面があると、子どもが意欲をもって取り組み、楽しみながら体力がついてくる。指導者としてのねらいをしっかりと実践してほしい。

④ 新体力テストとの関連

- ・新体力テストの落ちているところは、急には数値が上がらない。続けていくことで徐々によくなっていく。弱いからそこだけでなく、いろいろな運動をさせてほしい。5・6年生では、「巧みな動き」や「柔軟性」を意識してほしい。

4 成果と課題

(1) 成果

- ・体育科研究の進め方は、今後も実技研修会と授業研究会を実施する。特に、実技研修会が授業研究に大きな成果を発揮している。
- ・実技研修会での伝達を基にした各校の実践紹介はとても参考になるので、今後も継続する。来年度は全県学校体育研究会があるので、実技研修会は「表現運動」を予定している。また、各校が実践すべき内容については来年度の第1回総合研で確認する。

(2) 課題

- ・ねらいと評価の一体化を図る指導の方法の工夫改善。
- ・各学年の系統性をふまえた指導内容の明確化。